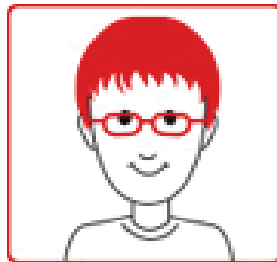


街場の就活論

Vol. 4

—新卒採用に今、何が起きているのか—

団 遊 (だん あそぶ)



アソブロックという私が代表をする会社でも、2012年春入社の新卒採用を始めました。今回のテーマは総選挙。学生自身が投票で選考通過者を決めるという、たぶん日本初の試みです。

社会の役に立ちたいという名の呪縛

この間「オープンキャンパススタッフへの応募が多すぎて、足切りをしました」という大学職員の声を聞きました。オーキャンスタッフとは、高校生が受験前にキャンパス見学に来る際に色々とお手伝いをする在学学生スタッフのことですが、僕が学生の頃は、応募が殺到するようなものではなかった気がします。

類似ケースとして、高大連携を目的とするサークルやボランティア活動も増えていると聞きます。こちらは、大学進学を控えた高校生に先輩が何かとレクチャーする活動体です。実際に高校に行って授業をしたり、イベントを開催したりします。

「社会の役に立ちたい」「人のために何かをしたい」というのは、就職活動の志望動機で近ごろや

たらと良く聞くフレーズです。しかし、オープンキャンパスやボランティア活動の話を知ると、これは就職活動生に限った話ではないのかもしれないと思いました。大学入学時から、もしかするとそれ以前から、「誰かの役に立ちたい病」の種は根をはっているのかもしれない。

ちなみに、就職活動の選考面で言うと、企業はこの動機をはっきり嫌います。経年で見渡して活躍できる若手になる確率が低いからです。全員というわけではありませんが、このタイプの学生は「利益を上げる」ことに罪悪感を持っている傾向があると言います。稼ぐことよりも役立つこと。非営利活動に魅力を感じるので、飯を食うための本業よりも、CSR活動などに興味を示したりします。それは、入社後の配属希望にも表れます。そういえば先日、日本航空の立て直しに向け舵を取る稲盛さんが「自分が来た当初は稼ぐことは悪だ」という雰囲気があって困った」と回顧をされてい

ました。

「役に立ちたい」ならば、まず「役に立つ自分」になるのが先決です。行動力はあるけれど、具体的スキルも知恵もない集団が寄り集まっても、できる援助はあまりに小さいと思います。それどころか、ときに、迷惑な場合もあります。「誰かの役立ちたい病」が蔓延しても、相変わらず献血への協力者は少ないこの国の病巣は、いったい何を栄養分に肥大しているのかと不思議でなりません。

山口百恵ちゃんのはなし

その対極ともいえる、私の中では至極まっとうな学生が、大学卒業後、仕事人になりゆく様を、少しご紹介します。主人公は、山口百恵ちゃん(仮名)と言います。この実話物語は、新卒学生が就職活動で使う「リクナビ」に連載されています。連載開始に当たり、リクナビに私が書いた序文の抜粋がこちらです。

みなさんこんにちは。団遊です。さて、今回からは短期集中連載をします。連載を担当するのは、ある女の子。名前を仮に、山口百恵さんとしましょう。この連載は、山口さんの社会人デビューから1年間の成長の軌跡です。

執筆者である山口さん、実は2010年3月まで僕のインターンをしていた女の子です。彼女は、美術系の大学に通っていて、2年以上、僕のインターンをしていました。そんな彼女も、ご多分にもれず、就職を目の前に悩んでいました。「やりたいことが特にない」のです。

相談を受けても、僕は別に何のアドバイスもしませんでした。彼女は考えた末に、先生になることにしました。運よく試験を通り、春からとある私立小学校で美術の先生を始めました。

別に、すごく教師になりたかった、わけでもないんです。ただ「動かなきゃ」という気持ちはあ

った。それで、教師になった。そんな人って、実は多いし、それでいいと思うんですね。

世の中の就職活動でよく「自己分析」という言葉がありますが、あれって「やるだけ無駄だ」と言う人も結構います。何事も「やり過ぎでは意味がない」というのが僕は正解だと思いますが、分析したところで、自分の持っている仕事観に出会える可能性は、それほど高くないというのも、また真なりです。彼女もそんな葛藤の中で、教師になった。

そんな彼女と、僕は文通をすることにしました。僕のインターンをした子は、すべからず卒業後1年間、僕に通信を送ること、がルールになっているのですが、その毎月の通信を、彼女の許可を得て、ここで連載しようという、そういう試みです。

果たして彼女が仕事とどう向き合い、どんな風に心が変化していくのか。それでは早速第一回原稿を、と思ったら、今号もすでに相当長文なので、次回請うご期待！

文責／団遊

連載開始当初は、誰に見向きもされない、私の趣味のような連載(転載)でした。しかし、彼女はこの連載の中で、人は自らの意思で仕事人になるのではなく、仕事人が人を仕事人にさせてくれるのだ、というキャリア教育においてもっとも重要な事実を語ってくれます。連載が進むにつれ、アクセスも飛躍的に伸び、今では更新待ち多数の人気コンテンツになっています。ある読者からこんなメールをもらいました。



今回も、たのしく読まさせていただきました。

初回～中盤にかけては「そんなんで先生になるなよ」「やっぱテキスト先生が多くなるわけだ」と、原理主義的な感想を抱いていましたが、この終盤にきての成長ぶりには感動すら覚えます。

どういう職業であれ、社会人になるというのは、自分が「なる」というよりも、関係性のなかで「つくられてゆく」というのが、とても明らかにみえています。

ちなみに現在第10回（か月）目まで進んでいる連載の1回目がこちらです。



※連載媒体のリクナビ

求人掲載者数 7,300 社、登録学生 40 万人以上

街場の就活論～リクナビ版～

それでは前回予告しました、山口百恵の社会人デビュー1年目の軌跡。まずは4月の通信からお届けしましょう。

団さん

ご無沙汰しております。山口百恵です。

この1ヶ月の報告をさせていただきます。

始業式、入学式、遠足と行事も満載な新学期です。毎日山口先生と呼ばれるわけですが、全く慣れません。

いつも山口先生（笑）くらいに聞こえています。

やっぱり自分が先生とかおもしろいです。

そして小学生はスーパー元気です。

授業中も元気です。

そんなに元気がいらぬ場面でも元気です。

正直に言うと彼らの相手はものすごく疲れます。

でも子どもっておもしろいなと思います。

死ぬほど無駄な動きが多いです。

そして恐ろしいセンスを持っています。

ノートに書かれる謎のオリジナルサインは信じられないほどダサいです。

授業は学年やクラスによって全然変わりますが、基本的には今はまだ自分に余裕がないのでうまくはいかないです。

それでも1回授業をするごとに気づくことがたくさんあるのでひとつずつ改善していきたいと思います。

自分が先生に向いてないと思うのは生活指導ができないことです。

一番苦手なのは言葉遣いです。

ご存知の通り自分自身がかなり雑な人間なので、子どもの雑な言葉遣いが全く気にならないのです。

タメ語で話されても注意し忘れてしまいます。

しかし先生はそれではいけないようです。

子どもがなついてくれるのは嬉しいのですが、はじめを忘れさせないようにするのが難しいです。

先生方はみなさん恐ろしくできた人ばかりでびっくりします。

今まで自分がいた環境と違い過ぎます。

毎日カルチャーショックを受けています。

そんなこんなで今のところは元気にやらせていただいています。

かなりざっくりな報告になってしまいましたが、よろしくお願いたします。

まだ4月ですから戸惑いが見られますね。そりゃそうですよ。皆さんが社会人になっても、絶対そうですって。いきなりエンジン全開できるほど、浅い世界じゃないですから。社会って。

大学デビューのときもそうだったでしょ。シラバス？ なに？ みたいな。そこから徐々にまわりを見て、リズムを掴んで行って、自分のポジションを探していく。居心地を見つけていく。この一連を、企業は「主体性」と呼ぶのですね。主体的な人材が欲しいって、実はそんな難しいことではないんです。要するに、そういうことです。

文責／団遊

こんなノリで連載は進みます。そして、4月はこんな中途半端だった彼女が、この後、驚くべきスピードで職業人としての心構えを身につけていきます。もちろん彼女の資質、根の真面目さもあるのでしょう。でも、それだけではありません。やはり、仕事が人を作るのだと思います。誰かの役に立てる「自分」に仕上げていくのだと思います。ここに「自分探し」はありません。私は、社会人初年次向け教育の肝は、こういうことだと思えてなりません。

本当は10回目までここに掲載したいくらいなのですが、編集長に怒られそうです。最後に第2回目をお届けして本原稿は終わりますので、続きが気になる方は、リクナビ2012をPCでひらいてもらい、フリーワード検索に「アソブロック」と入力して、「ブログ」ボタンを押してください。登録などは特に必要なく、誰でも見られます。本

当におもしろいです。

～こっちの百恵はすーごいが、



先生の百恵もすーごいぞ♪～
「GOLDEN☆BEST」より ©ソニーミュージック

街場の就活論～リクナビ版～

さて、山口百恵ちゃんの連載第二回目です。戸惑いの中4月を過ごした百恵ちゃん。GWを越えて、いよいよ5月病と闘う時期に突入しました。それでは5月号をご覧ください。

団さん

お久しぶりです、山口です。

社会人2ヶ月目の報告をさせていただきます。

2ヶ月目ということで学校には徐々に慣れて来ました。

授業は「これでいいわけないだろ」と思うことが多々ありますが、何せ図工の専科教員は自分一人しかいないので誰に突っ込まれることもなく、毎日が流れていきます。

ホントに少しずつ、可能なことから改善していくしかないです。

毎日自分なりに気をつかいながら過ごしていたのですが、やっぱり自分の頭のおかしさというか世間とのズレは隠せていないらしいです。

“こいつなんか様子がおかしい”というのは先生方にも子どもにもバレているようです。

同期の子が見事なまでに女子なので自分の雑さやおかしさが余計に目立ちます。

でもおかげさまで求められるもののハードルが低いのでよいです。

私立の小学校ということで裕福な家の子どもが多いです。

なのに給食で出たフルーツポンチの汁（要は缶詰のシロップ）の量で「誰々が多いから減らせ、とか具と比べて多い、少ない」などと本気で延々ともめていたのはおもしろかったです。

そんなことどうでもいいじゃないかと思いました。

子どもってアホでおもしろいですね。

困ったことに先週の半ば辺りから黄砂に喉をやられて声が出ません。

教師が声を出せないのは致命的ですね。

授業もやりづらいです。

でもそれ以外はとくにストレスもなく毎日ゆるゆると過ごさせて頂いています。

自分の適応力の高さには引きますね。

大学の時の友だちと久しぶりに会って話していて、「人生が劇的に変わるなんてことはない」という話になりました。

自分は今年から環境がガラリと変わったのに、どこにいても自分はあまりにも自分のままなので環境の変化なんて大した問題ではなく、人生が変わるなんてこともないのです。

ということで自分はこれから先も善くも悪くも自分のままなんだな、なんてことを思ったりした社会人2ヶ月目です。

すみません、なんか無駄な話が多く長くなりましたがよろしく願いいたします。

まずそう長くもないのに「長い」と感じてしまうその心境が、わかりますね。否応なしに社会人になっていく自分に、なんかちょっとガッカリするところもあるんでしょう。この間、僕の元にある営業マンがやってきまして、30歳の新人さんでした。

30歳で新人？ 前は何を……、と聞くと、複雑な顔をしながら「ロック・ミュージシャンを…」と答えました。

ちょっと音楽を、と言わないところが大変気に入りました。その生き方も、まだロックです。人生は、いろいろです。その色々な分岐点のひとつに、今みなさんはいます。

文責／団遊

続きもぜひ読んでいただきたいので、お時間のある時に、リクナビ2012を検索してください。次号では、冒頭に書いた、アソブロックの新卒採用「ASB 総選挙」のレビューをお届けします。